

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2016年7月★第118号

大人も満喫！「春の森で遊ぼう！ in 川崎町貸森林」

日時：4月29日（金・祝）8:30～15:30
場所：川崎町貸森林（川崎町前川）
講師：エコ・森林
（宮城県地球温暖化防止活動推進員グループ）
参加者：27名



炭で棒パンを焼く

毎年春と秋に2回開催している「森で遊ぼう！」。相変わらずの人気講座となっており、今回は全員が初参加でした。

子どもはターザンロープやブランコで遊んだり竹笛作りをするなど、初めての体験に歓声をあげながら楽しんでいました。植物観察やお風の棒パンづくりなどは大人も一緒に楽しみました。普段、家で炊事をしている親御さんたちも自然の中で、炭で豪快に焼いて食べるパンの味は格別だったようです。

自然体験をしたことのない親世代も増えており、親子が一緒になって自然を楽しむ機会を提供することは今まで以上に貴重なことだと感じた講座でした。



ツリーハウスの前で記念撮影

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 大人も満喫！「春の森で遊ぼう！ in 川崎町貸森林」
- P2 北上川河口の被災したヨシ原を再生！
／あなたのうちのパワーステーション、ミニ発電所ははじめませんか？
- P3 ワケルくんバスで行く！環境施設見学会「ごみのゆくえを見てみよう！」
／生ごみ堆肥化市民交流会
- P4 MELONcafe プチ講座
／かんきょう見聞記―古道具の出世物語―
- P5 協同組合からのお知らせ
／目指せ100人！環境リレートーク 諸岡浩子さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7 仙臺農塾3～5月開催報告
- P8 トピックス/イベント一覧/編集後記

東京海上日動GreenGiftプロジェクト

「北上川河口の被災したヨシ原を再生！～ヨシペン作ってハガキを書こう～」

日 程：6月5日（日）
 活動場所：北上大橋より上流約1kmの北上川左岸（北上町橋浦大須）
 実施人数：43名
 内 容：ヨシ原で移植作業、ヨシペン作り体験

北上川河口は、両岸約10kmにも広がる日本有数のヨシの群生地です。河面を渡る風にヨシがすれ合う音とヨシキリなどの水鳥の声は、環境省の「残したい日本の音風景100選」にも選ばれています。春から夏は青々としたヨシ原が広がり、秋には黄金色へと変わり、冬にはヨシ刈り、春にかけては火入れが行われ、四季を通じた風物詩となっています。ヨシ原には水質を浄化する効果があり、絶滅危惧種のトンボや鳥類も確認されている貴重な湿地です。



かつての一面に広がるヨシ原の姿



現在のヨシ原

また、北上川のヨシ原は、海水と真水が入り混じる汽水域であり、干潮満潮で地面が現れたり水に覆われる微妙な水域であることから、ヨシが固く丈夫に育ち、他の地域にはない品質の良いヨシ材として知られています。かつてヨシは茅葺屋根や土壁の下地材として住民の生活必需品であることから、刈り取りと芽生えが繰り返され、地域全体でヨシ原を保全してきました。しかし、これらの需要が低下した現在では、神社仏閣などの歴史的建造物の保存・修理に活用されるなどに留まっています。

そのヨシ原は、震災の津波と地盤沈下によって、約半

数が失われました。地盤沈下もある程度は戻ってきているものの、現在もヨシ原の回復は遅れています。

今回の再生活動自体は約1時間、岸沿いに生えているヨシを根元から掘り出し、生えていないところに移植する作業です。

広大なヨシ原に対しては、約1000本を植えてもごくわずかではありますが、植えたヨシが根付き広がって徐々に再生していくことを思うと、心地よい充実感がありました。

午後にしたオリジナルのヨシペンも、参加者にとってはヨシの思い出と共に貴重なお土産になったようです。

ヨシは環境保全を体験する場として、地域の伝統文化を伝え利用できる貴重な資源です。震災からの暮らしの復興も長い時間がかかりますが、人の復興と共に、自然の復興も考えていくことも大切なのではないでしょうか。

- 主 催：MELON、特定非営利活動法人あすの森、特定非営利活動法人環境生態工学研究所
- 共 催：特定非営利活動法人日本NPOセンター
- 協 力：有限会社熊谷産業、環境サークルたんぼぼ、東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）
- 協 賛：東京海上日動火災保険株式会社
- 後 援：環境省、宮城県



スコップでヨシを植えていく作業

GreenGiftプロジェクトとは

東京海上日動火災保険株式会社が、ご契約時にお客様に「ご契約のしおり(約款)」等をホームページで閲覧する方法を選択いただくことにより、紙資源の使用量削減額の一部で国内外の環境保護活動をサポートするものです。

2013年より各地域の環境NPOと協力して、主に子どもたちとそのご家族を対象とした環境保護に関する体験活動を行っています。

環境保護に関する体験活動を通じて、子どもたちが身近なところから環境について考えるきっかけを持つことによって、持続可能な社会が実現することを目指しています。

～あなたのうちのパワーステーション、ミニ発電所ははじめませんか？～ 「家庭用蓄電池付ソーラーシステムを知って、使ってみよう！」

日 時：3月26日（土）14:00～16:00
 場 所：みやぎ生協文化会館 ウィズ2F 研修室
 参加者：24名

災害時に最低限の電力を確保するために、また日常的に使用できるよう、自宅で手軽に自然エネルギーを活用できる講座を開催しました。50wのソーラーパネルと小型の蓄電池、コントローラーの完成キットを用意し、地球温暖化や自然エネルギーの講話、キットの使用説明を行いました。

参加者からは電子レンジや炊飯器、電気暖房機に使用できるのかという質問がありましたが、このキットは最低限の電力確保を目的としているため、瞬間的に大量の

電力を消費する電化製品は動かせません。そのかわり小型で持ち運びやすく、電気の変換ロスを少なくするために直流電気で使う仕様になっており、USBをつないで携帯電話の充電やLED照明などが使用できます。希望があれば、キット10台以上のお申込で講師派遣も実施可能です。災害時の電力確保のため、日常生活に自然エネルギーを取り入れてみませんか？



参加者は熱心にソーラーシステムの使い方を聞いていました！

ワケルくんバスで行く！環境施設見学会 「ごみのゆくえを見てみよう！」

日 時：5月26日（木）9:50～15:30
見学場所：仙台市松森工場・松森資源化センター・
仙台環境開発株式会社
参加者：31名

家庭ごみの焼却施設である松森工場では、最新式の処理システムと膨大な燃えるごみの量に圧倒されました。一掴み最大8tという大きなクレーンでごみを吊り上げてバラバラと落とし、燃えやすいもの、燃えにくいものが均一に混ぜられますが、クレーンの大きさにびっくり。

ビン・缶・ペットボトルなどを分別処理して商品化する松森資源化センターでは、ビン・缶・ペットボトルを乗せたベルトコンベアの上から、人が手作業で異物を取り除く作業を見学しました。ペットボトルにラベルやキャップが付いたままだと、リサイクルに支障がでるとのこと。飲み物が大量に入っているペットボトルはリサイクルされずに廃棄されるそうです。ラベルは



ペットボトルを圧縮して固まりに！

はがし、キャップもしっかり分別しましょう。また、マイボトルなどを普段使用することでペットボトルの根本的な削減になります。

事業系の資源ごみを選別・リサイクルしている仙台環境開発株式会社では、住宅の廃材を回収し、品質ごとに分け、培養土やボイラーの燃料に。廃プラスチックは石炭やコークスの代替燃料の「RPF」にリサイクルされています。



住宅廃材をリサイクルして、培養土や燃料のチップに！

ごみを出すときは処理に携わる方の苦勞にも思いをはせて、しっかり分別しなくてはいけないと実感した一日でした。もちろん、昼食のお弁当の割りばしも軽く洗って仙台市本庁舎にある「わりばし回収ステーション」へ。日本製紙岩沼工場で新しい紙に生まれ変わります。参加者の中には各球場のエコステーションで分別の呼びかけをしているボランティアさんもあり、何のために呼びかけているのか学習する良い機会となりました。

初めての方も 失敗や放置しちゃった人も 生ごみ堆肥化市民交流会

日 時：6月3日（金）13:30～15:30
会 場：仙台国際センター駅2階多目的スペース
参加者：50名程度
協 力：仙台生ごみリサイクルネットワーク

今回初めて開催した生ごみ堆肥化市民交流会、定員30名のところ当日来場者が多く訪れ、生ごみ堆肥化への関心の高さに企画側もびっくりでした。

紹介したのは、ダンボール式生ごみ堆肥・コンポスター式生ごみ堆肥・プランター式生ごみ堆肥・落ち葉の堆肥の4つの堆肥化方法。それぞれの作り方のポイントを実演しながら説明しました。容器はそれぞれですが土（腐葉土）や米ぬか等と生ごみを混ぜて、微生物の力を借りて分解させる



開放感のある国際センター駅会場。交通の便が良いため、多くの来場者が訪れました



堆肥化形式ごとに集まって自由に質疑応答

仕組みは同じです。ベランダではダンボール式やプランター式、庭や畑がある方はコンポスター式が適しています。秋には落ち葉を堆肥化すれば、春には良質な堆肥になります。

自由な質疑応答の間では、コンポスターが自宅にあるものの活

用していないという方もおり、失敗しないためにはどうしたら良いか具体的な質問が飛び交っていました。

これから植物には堆肥や追肥が必要になってくる時期です。生ごみ堆肥は、完熟発酵させて堆肥として使えるようになるには、約2～3ヶ月かかります（形式や量によって異なる）。今から秋冬のお花や野菜に向けて、自分にあった形式で生ごみ堆肥化に挑戦してみませんか。作り方の資料がありますので、MELONまでお問合せください。



MELONcafe

- 4月23日（土）13:30～15:30
「空きピンをリメイク♪ガラスエッチング体験」
- 5月21日（土）13:30～14:30
「オシャレで簡単♪着物のカードケース作り」

「MELONをcafeのように気軽に来られる場所にしたい」「オシャレですぐにできるエコを体験してほしい」と



薬剤がはみ出ないように塗る作業、真剣です！

いう思いから誕生したMELONcafeプチ講座。4月は「ごみの減量を意識したライフスタイル」をテーマに開催しました。空きピンをかわいくリメイクしてもらうひと働きしてもら

う、初心者向けのガラスエッチング体験。ガラスエッチングとは、薬剤を使用してすりガラスのような模様をつけるアートです。参

加者は、お互いどんなデザインにしたのか出来上がりを見せ合いながら和気あいあいと楽しんでいました。



角を丁寧に折り込み、きれいな仕上がりに♪

牛乳パックは年間約100億個消費されており、リサイクルすると牛乳パック6

枚でトイレットペーパー1個分になると言われています。5月のプチ講座では、牛乳パックをリユースしてカードケースを作りました。着古した着物の生地と牛乳パックを型どおりに切り、両面テープで貼り合わせるだけなのでとっても簡単。参加者は、友達にも作ってプレゼントしたいと話していました。今回は寄付していただいた着物を活用しました。気に入っていて捨てられない古着などを活かせば、オリジナルのカードケースが出来上がります。作り方が知りたい方はMELON事務局にお問い合わせください。

今後のプチ講座はより一層、環境に配慮したライフスタイルのきっかけづくりとなるサロンにしていきたいと思っております。秋以降の講座もどうぞお楽しみに♪



古道具の出世物語

落語篇①

「かえんだいこ 火焰太鼓」

石垣政裕 (MELON 理事)

落語は今日のように、テレビで放映されたり、大きなホールで上演されたりしたのではなく、比較的小さな小屋で行われていました。このような演芸場は明治期から仙台にもあり、汽車ですいぶん時間がかかったとは思いますが、有名な方も東京から来ていました。たぶん昔は入場料（木戸銭）も安かったのでしょうから、庶民にとっても身近だったのではないのでしょうか。だから、江戸・明治から今日に至るまで庶民・市民の「くらし」がよく描かれています。

今回は3R・4Rの「リユース」を考えながら、五代目古今亭志ん生「火焰太鼓」（ザ・ベリー・ベスト・オブ「志ん生」、1997年キングレコード製作、日本音楽教育センター販売）を聞いてみましょう。

うだつの上がない（とカミさんにいわれる）古道具屋の亭主が買ってきた古い太鼓をさるお殿様が気に入って買うことになる。なんと、国宝級の「火焰太鼓」という品らしい。この物語のように古い物が『実は・・・』という、庶民の夢を道具に乗せた「出世物語」でもあります。

「はてなの茶碗」「道具屋」など落語には古道具屋さんがよく登場します。ものにはそれぞれ思い出があり、それを買った人の、それを使った人の、それを引き継いだ自分の「物語」があります。それを生活の中で「語り合う」ことの面白さも「生きていくこと」の楽しみの一つだと思います。大量生産、大量消費を夢見た日本が、もう一度舵を切り、身の回りを見つめ直す時代が来ています。古道具屋さんでなくても、『出世』しなくても、モノを使い続けることの楽しさを見つけてみましょ

うか。さて、この古今亭志ん生、昔、仙台によく来ていたのだそうで、そのころ仙台でよく名の通った興行師との面白いエピソードが「貧乏自慢」（1981年2月 立風書房）に描かれています。

各協同組合からのお知らせ

MELONの協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

夏休み親子企画「森と水辺の観察会 in 南三陸」参加者募集！

自然豊かな南三陸で山の仕事体験や観察、海辺の生き物探しなどを行います。夏休みの一日、親子で出かけてみましょう。

日 程：7月30日（土）

集合場所・時間：①仙台駅東口 貸切バス発着所 8:30集合、17:00解散予定
②道の駅 津山もくもくランド 9:45集合、16:00解散予定

参加費：大人2,500円、中学生以下1,500円、未就学児無料
（南三陸産食材を使った昼食付）

持参物：飲料、帽子、軍手、タオル、着替え、長袖、長ズボン、運動靴

募 集：30名 主催：みやぎ生協

申込方法：企画名、参加者名（子どもは年齢も）、住所、電話番号、集合場所を明記し、ハガキ、FAX、メールでお申込み下さい。



昨年の様子

申込み先 みやぎ生協生活文化部 森と水辺の観察会係
〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2
TEL: 022-218-3880 FAX: 022-218-3663 Email: sn.mkankyok@todock.jp



目指せ100人！ 環境リレートーク



第61人目の執筆者
諸岡 浩子さん
（エネシフみやぎ事務局長・
地球の未来と私たち研究所代表）

私が活動の場としている「エネシフみやぎ」は、自然エネルギー利用について学び、共有し、実践につなげていく場として2012年5月に誕生しました。自然エネルギーに関する情報を発信するとともに、自然エネルギーの普及啓発にむけた勉強会、イベントの開催を積み重ねています。今年4月2日に開催したシンポジウム「自然エネルギーで地域社会を変える」では、飯田哲也さん（環境エネルギー政策研究所長）と佐藤彌右衛門さん（全国ご当地エネルギー協会会長）に講演していただきました。後半は宮城県の政策紹介に加えて、宮城や福島で自然エネルギーに取り組む方々によるパネルディスカッションを行いました。シンポジウムには140名が参加し、

この場がきっかけとなって自然エネルギーに係わる団体、自治体、事業者、消費者の新たなつながりが生まれています。これらのネットワークをつなぐ架け橋になれば…との思いで活動しています。

一方で、最近私は「地球の未来と私たち研究所」を立ち上げ、気象庁で27年間勤務した経験を活かした防災や地球温暖化の講演とともに、過去を振り返りつつ今につながる知恵を見出すために、ネイティブ・アメリカンの口承史『一万年の旅路』の読書会を行っています。慌ただしい日々の暮らしの中で、3世代先の子どもたちに思いを馳せる時間を大切にしていきたいです。

<連絡先>
エネシフみやぎ メール：eneshif.miyagi@gmail.com

…次号執筆者紹介…

東梅祐也さん
（特定非営利活動法人STELA 理事）



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.73

推進員だより No.21

気持ちを新たに！～平成28年度推進員委嘱状交付式&研修会開催～

日程：4月26日(火)
会場：宮城県自治会館
参加者：19名
内容：1. 第1・3・5・7・9期生の委嘱状交付式
2. 研修会（ワークショップ等）

今年度は、第1期から7期まで奇数期の推進員27名が継続して委嘱されました。さらに、第9期生として新たに3名が委嘱され、今年度の推進員は全体で56名。交付式では、宮城県環境政策部の佐野部長から一人ひとりに委嘱状が手渡され、激励の言葉をいただきました。気持ちを新たに、これから2年間の推進員活動がんばりたい



委嘱状が手渡され
身の引き締まる思いです

ですね！

研修会では、「今年度推進員としてやってみたいこと」や「目標」をテーマにグループワークを行いました。一人ひとり紙に書き出した後、グループ内で発表。その後は、互いの活動の情報交換や熱い思いを語り合い、交流を深めました。

今年度も地域イベントや出前講座など、県内各地で地球温暖化防止の取り組みを広めるべく活動していきます。推進員の皆さんのますますの活躍を期待しています！



今年度もよろしくお願ひします！

冬に向けて、今から薪ストーブ・ペレットストーブ考え始めてみませんか？

宮城県の家庭からのCO₂排出量で2番目に多いのは、冬にしか使用しない暖房で（全体の17.9%）、その量は全国平均の約2倍です。そのCO₂排出を大幅に削減できるのが、薪ストーブ・ペレットストーブです。薪や木材を圧縮したペレットは、燃料として使用してもCO₂は増えません。木は、燃やした時にはCO₂は出ますが、それは成長する過程で吸収したCO₂のため、全体排出量は0と考えます（カーボンニュートラル）。つまり、暖房を灯油や電気から切り替えれば、その分のCO₂を大幅に減らすことができます！

平成27年度、センターでは薪ストーブ・ペレットストーブに関わる21の有識者・団体・企業とコンソーシアム（共同体）を組み、①新規ストーブモニター53件に3ヶ月間のアンケート調査を実施 ②ストーブフェスタ（展示体験交流会）の開催 ③ストーブの基礎をまとめたパンフレットを作成しました。モニターの声では「想像以上に暖かい。暖かさが長続きする。」との声が多く、

同時に「炎のゆらぎや燃える音で癒される」との声が多くありました。

県内では年間500台以上のストーブが普及しており、薪ストーブは年間1.54t/台、ペレットストーブは1.37t/台のCO₂を削減する効果があることも分かりました。

薪ストーブ・ペレットストーブは暖かさと癒しが得られ、そしてストーブを囲んで会話が生まれる「家の顔」となります。興味のある方は、まずはユーザーの生の声も掲載しているパンフレットを見てみませんか。MELONまでご連絡いただくか、WEBサイト「出版・販売物」のページで公開しています。



仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

第7回

「里山に暮らし地あぶらを搾る 菜の花と風景のおいしいつながり」

日時：3月23日（水）19:00～21:00

（3月31日追加開催）

会場：旬魚旬菜 仁

（青葉区上杉1-16-3 JAビル別館1階）

ゲスト：小野寺伸吾さん（岩手県一関市 工房地あぶら）

参加者：18名（23日）、17名（31日）

第8回

「優しさと美味しさの関係～新しい就労支援の現場から～」

日時：4月27日（水）19:00～21:00

会場：長町遊楽庵びすた～り（太白区長町3-7-1）

ゲスト：相澤正人さん

（社会福祉法人みんなの輪わ・は・わ味明）

参加者：25名

第9回

「地域支援型農業の可能性『農民ジョンの心の土』上映会」

日時：5月25日（水）19:00～21:30

会場：ワークショップスペースBEGIN

（青葉区国分町1-6-15奥田ビル3階）

ゲスト：村岡次郎さん（有機農家）

参加者：21名



右手に菜種、左手に油を持ちながら
お話しされる小野寺さん

食材をテーマにした講座が多いですが、第7回は調味料である油がテーマでした。白和えに、えごま、つばき、ひまわり、なたねの油を垂らし、油のテイティングをしました。その後、油搾りのきっかけなどを伺いました。昔ながらの菜種油をもう一度食べたいという声から生まれ、は

じめは菜種の栽培だけだったものが、いつしか地域の中で油搾りを行うようになり、今では中尊寺の「不滅の法灯」の燃料に使われるまでになったそうです。菜種油搾りを通して、地域や人々とのつながりを実感したという小野寺伸吾さん。製品のひとつである「まごどさ」の意味は、「孫たちへ」という意味。昔ながらの伝統を、これから先の子や孫の代まで伝えていきたいという思いが込められています。

食を通じて、障がいのあるなしに関わらず、その人がその人らしく、安心して暮らせる地域社会を目指している方がいます。相澤正人さんが勤めるわ・は・わ味明は、利用者さんが、工賃をもらいながら作業をするB型事業所で、リサイクル作業（銅線皮むき、缶つぶし等）、米粉の製粉作業、農園でのトマトやイチゴの栽培収穫作業などを行っています。



相澤さんは大学時代、
精神障がいの作業所ボランティアで
衝撃を受けて福祉の世界に

宮城県のB型の平

均工賃は、月18,185円。彼らが少しでも安定した生活とやりがいを持って働けるよう、障がいの度合いに合わせた作業とフォローをしながら、新たな商品の開発や、安定した品質の提供に挑戦しています。土に根を張り、じっくり色づいてから手摘みされた真っ赤なイチゴは、今まで食べたことがないほど甘酸っぱくて濃厚なイチゴ本来の優しい味がしました。

海外でCSA（地域支援型農業）を経験してきた村岡次郎さんをゲストに招き、村岡さんの野菜や、同じく有機農家である三田常義さんの野菜を使った料理を食べながら、CSAを題材にしたDVDを鑑賞しました。CSAとは、消費者が地域の農家と直接契約して、代金を前払いして収穫された農産物を購入する取り組みです。契約した消費者は、農作業や収穫した野菜の分配を手伝います。安全・安心な野菜を作る農家を支えるのはもちろ



村岡さんのご自宅周辺では
ホタルが見られるそうです！

んですが、積極的に農作業に関わることで、生産者が抱える問題や課題を自分のこととして捉えることができるのかもしれない。村岡さんは、「自然が好き。身近な自然を守っていきたい。」その思いを伝えていきたいそうです。

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

7/14 (木)	MELONcafe 例会
7/17 (日)	「学都『仙台・宮城』サイエンス・デイ 2016」にブース出展
7/23 (土)	「エコチャレンジフェスタ in ユアスタ」にブース出展
7/26 (火)	みやぎ里山応援団 例会
7/30 (土)	「水道フェスタ 2016」にブース出展
8/20 (土)	「地球環境に優しい住宅の見学会・セミナー in 南三陸」開催
8/30 (火)	自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
9/3 (土)	「仙台長町紙芝居フェスティバル」に出演
9/4 (日)	「エコフェスタ 2016」にブース出展
9/17 (土)	「第 21 回 MELON 会員と市民のつどい MELON フェスタ」開催
9/24 (土)	「秋の森で遊ぼう! 『こ〜ぶの森向大倉山』自然観察&山の仕事体験会」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

MELONフェスタを開催します!

「第21回MELON会員と市民のつどい MELONフェスタ」
 日 時：9月17日(土) 13:30～16:00頃(予定)
 会 場：エルパーク仙台6Fギャラリーホール
 (仙台市青葉区一番町4-11-1)
 参加費：無料

会員同士や会員と役員が知り合い、交流することを目的として開催します。内容は現在実行委員会で検討中ですが、会員企業と部会・プロジェクトのブース出展に加え、お菓子の提供ブースや音楽演奏、学生サークルのPRタイムなど盛りだくさんの内容で企画中です。

会員はもちろん会員以外の皆さまの参加も大歓迎です!参加費無料ですので、9月17日(土)はぜひエルパーク仙台ギャラリーホールにお越しください!

地球温暖化対策のための国民運動 参加者募集中!

COP21で採択された「パリ協定」をうけ、日本では2030年に向けて温室効果ガス排出量を2013年度より26%削減すると掲げています。その目標を達成するために始まった国民運動「COOL CHOICE(=賢い選択)」は、省エネなど温暖化対策に資する「賢い選択」をしようという取り組みです。



MELONでは、この国民運動の参加者を募集しています。この国民運動に参加したい!という方は賛同用紙にご記入の上、FAXにて返送をお願いいたします!

地球温暖化を防止するためにも、身近な生活の中で未来へ繋がる選択をするアクションをぜひみんなできましょう!!

問合せ・提出先：ストップ温暖化センターみやぎ
 TEL：022-301-9145 FAX：022-219-5710

秋の森で遊ぼう!～「こ〜ぶの森向大倉山」自然観察&山の仕事体験会～

募集!

日 程：9月24日(土) ※小雨決行
 開催場所：こ〜ぶの森向大倉山
 集合場所・時間：

- ①バス乗車の場合：仙台駅東口貸切バス発着所 9:00～15:30(予定)
- ②現地の場合：大倉ダム湖畔公園駐車場 9:45～14:45(予定)

参加費：無料

内 容：自然観察、枝切り体験、木の筒切、薪割り体験、クラフト作成など

申込内容：氏名、住所、連絡先、生年月日、集合場所をお知らせください。

問合せ先：菅田、小林



編集後記

■突然ですが、私廣重は、6月末をもってMELONを退職いたしました。2007年からお世話になっており、9年3ヶ月で多くの方に出会い、たくさんの経験をさせていただきました。今後は一会員として活動に参加したいと思っております。本当にありがとうございました。(廣重)

■私の夏バテ対策は、「朝食にごはんとみそ汁」です。「食」ってホントに「人を支える良いもの」なんですね。(高橋)

■我家のベランダにあるネムノキ。育て始めてもう5年以上になりますが、今まで花が咲いたのはたった1輪のみ。今年は咲かずに終わってしまいました(泣)。来年こそは!(吉田)

〈会員状況〉

669名
法人 68
任意団体 11
個人 590
2016年5月31日現在

ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。



MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用いただけます。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network
 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。

